

乳幼児健診の事後措置に関する研究

第1報 精密健診票の発行状況の調査

研究協力者 窪田英夫(東京都衛生局)
平山宗宏(東京大学医学部)
村田光範(東京女子医大)
岡愛子(東久留米保健所)
石井桂子(千代田区麴町保健所)
栗原久子(北区王子保健所)
笹井安佐子(中野区中野保健所)
松崎奈々子(目黒区目黒保健所)
斉藤昌(目黒区目黒保健所)
金村京子(東京都衛生局)
生田恵子(東京都衛生局)

1) 研究の目標

小児の包括的健康管理という中で乳幼児の健康診査をとらえると、健康診査をうけた児が、必要に応じて地域の専門医療機関や専門施設と連携をもたれながら、一貫した保健指導が継続的に行なわれる形になっていなければならない。そうした視点からは、乳幼児健診後に、何らかの異常の疑がもたれた児に発行する精密健診受診票の取扱いは、保健所と地域医療機関との連携のための最初のパイプにあたり、しかもその結果は継続的な健康管理上の貴重な情報として欠かすことの出来ないものである。そこで、今回の研究の目標としては、現在保健所で発行している乳児、3才児精密健診票の実態を詳細に検討しながら、健康診査の質的向上、地域医療機関との連携のあり方、継続的健康管理の方法などについて考察する予定である。当面、本年度の研究内容としては、都内5保健所(区部3カ所、市部2カ所)における昭和

54年度の精密健診票の発行の実情を調べたので、その結果を報告する。

2) 本年度の研究の結果

(1) 都内5保健所における精密健診票の発行状況

各保健所における昭和54年度の保健所実施乳児(3カ月児)健診及び3才児健診の受診児数及び精密健診票発行数を示すと表1の通りである。保健所別にまた健診別に可成りバラツキがみられるが、このことは健診担当医の判断の巾や、また補助的に実施されている保健所での経過観察健診、療育相談(専門医による運動機能障害児の健診、相談の機会)などとの関係が影響していると考えられる。

(2) 精密健診票による受診の受診科別分類

その結果は、表2の通りである。こうした中でのやや意外に感じられることは、眼科系の精密健診

の多いことで、特にM保健所の3才児健診では大部分が眼疾患である。このことは、最近、乳幼児における斜視、近視、遠視などの発見が目立ってきていることによるといえるが、同時に健診時における眼疾患のスクリーニング方法にも検討すべき点がある問題といえよう。

(3) 精密健診票の受診後の経過

表3に示す通りである。約30%異常なしがみられている。

(4) 受診後の結果把握の手段 (2保健所)

診察医からの連絡が43.7%と約半数である。3才児健診に多く乳児健診が少ないのは、両健診で依頼様式が異なり、3才児健診では費用の請求と

健診結果とが同一紙面に記入されることになっているので結果がとりやすいが、乳児ではそうになっていない。従って、保健所によっては補助的にハガキ又は返信用封筒を受診児にもたせているところもある。この保健所はそれが行なわれていないところである。保護者からの連絡も17%にみられ、保健所から照会している場合もあるが、いろいろな方法に頼って情報がえられる形になっているのが実情といえる。

3) 今後の研究方向

こうした実態を都内全保健所を対象に実施しながら、研究目標に述べた検討をしてゆき度い。

表1 各保健所における健診別精密健診票発行数

(昭54年度)

保健所名	健診の種類	(a) 健診対象児数	(b) 健診児数	精密健診票 発行数 (c)	$\frac{c}{b} \times 100$
O	乳児	2168	1982	60	3.0
	3才児	2368	1821	40	2.2
N	乳児	1980	1768	24	1.4
	3才児	1838	1581	57	3.6
M	乳児	1653	1493	39	2.6
	3才児	1553	1221	67	5.5
T	乳児	2343	1805	21	1.2
	3才児	2368	2010	53	2.6
H	乳児	2376	2076	51	2.5
	3才児	2755	2428	27	1.1
計	乳児	10520	9124 (86.7)*	195	2.1
	3才児	10882	9061 (83.3)*	244	2.7

* : 受診率 (%)

表2 精密健診票による受診の疾患別分類

(延数)

保健所別 乳児・3才児別 受診科別		O		N		M		T		H		合計
		乳児	3才児									
整形外科系		4	7	2	2	2	1	0	4	4	1	27 (6.0%)
眼科系		29	8	7	26	9	53	2	12	2	10	158 (35.3%)
耳鼻咽喉科系		2	2	0	3	0	5	0	3	5	1	21 (4.7%)
皮膚科系		5	0	0	0	1	1	1	1	6	3	18 (4.0%)
泌尿器科系		4	1	1	2	2	4	1	4	3	4	26 (5.8%)
外科系		9	6	0	2	3	3	0	1	5	3	32 (7.2%)
内科系	心疾患	3	9	6	4	2	2	6	15	6	1	54 (12.1%)
	その他	1	1	6	2	0	3	1	2	0	1	17 (3.8%)
神経・精神発達系	運動機能	2	5	2	14	18	5	4	4	1	12	67 (15.0%)
	精神・言語発達	0	3	1	5	2	2	6	6	1	0	26 (5.8%)
	自閉傾向	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1 (0.2%)

計 447

表3 精密健診票による受診後の経過

保健所名	精密健診 の 種 類	受 診 後 の 経 過 の 分 類						
		総 数	経 過 観 察 (再検査など含む)	治 療 へ	手 術 へ	異 常 な し	未 受 診 ・ 死 亡 な ど	転 居 ・ 不 明
O	乳 児	60	25	2	8	20	1	4
	3 才 児	40	23	2	2	11	0	2
N	乳 児	24	9	4	0	8	0	3
	3 才 児	57	30	5	0	14	4	4
M	乳 児	39	16	11	3	4	0	5
	3 才 児	77	26	10	1	30	7	3
T	乳 児	21	11	0	1	8	0	1
	3 才 児	53	18	6	0	26	3	
H	乳 児	51	28	1	5	11	3	3
	3 才 児	27	11	3	0	5	6	2
総 計		449	197	44	20	137	24	27
		(%)	(43.9)	(9.8)	(4.5)	(30.5)	(5.3)	(6.0)

表 4 精密健診票による受診後の結果把握の手段

分類	保健所名	総数	診察医からの連絡	保健所から電話照会	保健所から訪問照会	保健所特別相談へ来所	医療給付申請	保護者(電話、はがき、来所)からの連絡	児相からの連絡	再検査中	一才六ヶ月児健診で判明	使用せず	転居	その他(把握方法不明)	不明
乳児精密	OHC	60	6	19	4	5	2	16			1	2	3		2
	THC	21	6	4	6			5							
三才児精密	OHC	40	22	9				4	1	1			1	1	1
	THC	53	42	3	1	1		5						1	
総計		174 (%)	76 (43.7)	35 (20.1)	11 (6.3)	6 (3.4)	2 (1.1)	30 (17.2)	1 (0.6)	1 (0.6)	1 (0.6)	2 (1.1)	4 (2.3)	2 (1.1)	3 (1.7)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1)研究の目標

小児の包括的健康管理という中で乳幼児の健康診査をとらえると、健康診査を受けた児が、必要に応じて地域の専門医療機関や専門施設と連携をもたれながら、一貫した保健指導が継続的に行なわれる形になっていなければならない。そうした視点からは、乳幼児健診後に、何らかの異常の疑がもたれた児に発行する精密健診受診票の取扱いは、保健所と地域医療機関との連携のための最初のパイプにあたり、しかもその結果は継続的な健康管理上の貴重な情報として欠かすことの出来ないものである。そこで、今回の研究の目標としては、現在保健所で発行している乳児、3才児精密健診票の実態を詳細に検討しながら、健康診査の質的向上、地域医療機関との連携のあり方、継続的健康管理の方法などについて考察する予定でいる。当面、本年度の研究内容としては、都内5保健所(区部3カ所、市部2カ所)における昭和54年度の精密健診票の発行の実情を調べたので、その結果を報告する。